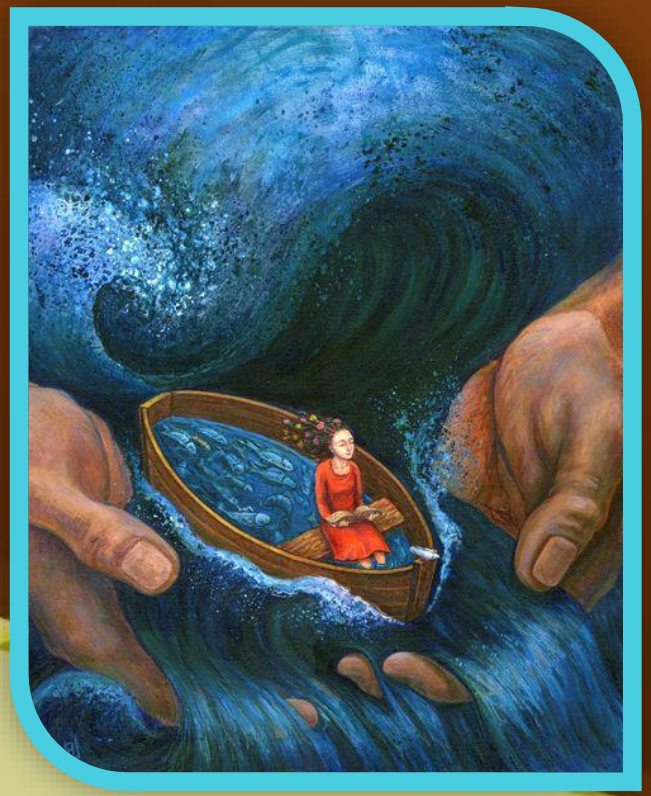
主のための歌を
異教の地で歌う

2024年2月3日　第5課

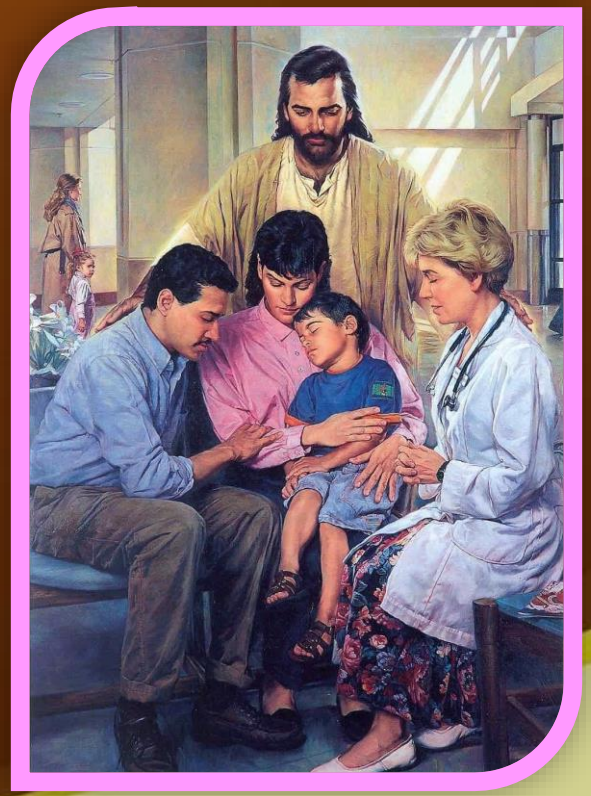
「われらは外国に
あって、どうして主の歌を
うたえようか。」
(詩編 137:4　口語訳)

どうして歌うことが
できようか　主のための歌
を、異教の地で。」
(詩編 137:4　新共同訳)



聖書の信仰は、確信や肯定と同様に、しばしば疑念や不安を伴う。特に悪や神の不在と思われる事態に直面すると、その疑念や不安はほとんど耐え難いものになることもある。

しかし、疑念は決して神、神の愛と義の御性質、神の誠実さに言及すべきではない。詩篇の作者たちは、将来について疑念を抱くかもしれないが、神の揺るぎない愛と誠実さに訴えることが多い。



- なぜ神は罪と苦しみの存在を許すのか？(詩篇74篇、79篇）
- なぜ神は罪なき者を苦しめるのか？(詩篇88篇）
- なぜ神は今の苦しみを終わらせないのか？ (詩篇69篇)
- 聖書の中の主の約束は失敗したのだろうか？(詩篇77篇)
- なぜ悪人は栄えるのか？(詩篇37篇、73篇)

なぜ神は罪と苦しみの存在を許すのか？

「どうして異邦人は言うのでしょう、「彼らの神はどこにいるのか」と。あなたのしもべらの流された血の報いを／われらのまのあたりになして、異邦人に知らせてください。」詩篇79：10

ネブカデネザル王が神殿を破壊し、エルサレムを荒廃させたとき、神の民は完全に混乱した。（詩79:1-4;、74:3-8）

神はいつまで苦しみを許すのか？悪人の勝利はいつまで続くのか。いつまで神の御名を冒涜するのか。いつまで罪を赦さないのか。いつまで沈黙を守るのか。(詩79:5、 74:9-11）

神の民が滅ぼされたなら、神の御名の栄誉はどこに行ったのか？詩篇の作者が見出した唯一の解決策は、神が過去になされたように、民の仇を討ち、敵を滅ぼすことである。（詩79:6-7, 12、74:13-19）

罪がこのような状況を招いたことを自覚している彼は、神に耳を傾け、契約を思い出し、罪を赦し、苦しみを取り除き、民のために行動してくださるようお願いする。」（79:8-9, 11,13、74: 20-23）

(日)
なぜ神様は、
ご自身に不評をもたらしうる悪を、
すぐに阻止されないのですか？
その悪は、宣教にとり、
マイナスになりませんか？

なぜ神は罪なき者を苦しめるのか？

「わたしの魂は悩みに満ち、わたしのいのちは陰府に近づきます。」
詩篇 88:3

神を愛し、神に仕えようとする人は、神に守られ、悪から解放されると思うかもしれない。しかし現実には、義人もまた他の人と同じように苦しむのだ。

病気で死を待つ詩篇の作者は、なぜ神が応えてくださらないのか理解できない（詩88:3-4、9-14）。彼は、神が自分の病気と苦痛の原因であるとさえ非難している（詩88:6-8、16-18）。

詩篇88篇には、彼の病を引き起こした可能性のある罪については言及されていない。現実には、彼の苦しみは（私たちの苦しみにしばしば起こるように）彼自身の罪から派生したものではない。この現実が、苦しみを理解しがたいもの、不可解なものにしている。

解決策はただ一つ、すべてを支配しておられる方に叫び、時が来れば行動してくださるのを待つことだ（詩88:1-2）。

(月)
十字架のキリストの苦難を思うことは、
試練を堪え忍ぶことについて
どの様な助けになりますか？

なぜ神は今の苦しみを終わらせないのか？

「わたしは叫びによって疲れ、わたしののどはかわき、わたしの目は神を待ちわびて衰えました。」
詩篇69：3

詩篇の作者は、神との距離をどの程度感じているのだろうか？

それは飲む水を見つけられない鹿のようだ（詩42:1-3）。

彼は悩み、傷つき、生きる意欲を失っている（詩102:2-4）。

彼は、ペリカンやフクロウや孤独な鳥のように、砂漠に住んでいるようだ（詩102:6-7）。

彼は、神からの助けなしには、泥沼に沈み、立つことができないと感じている（詩69:1-3）。

神の不在をどう受け止めるか？

彼は沈黙せず、祈り続ける（詩69:13）

彼は自分自身を吟味する(詩69:5-6）

彼は神への愛を宣言する（詩69:7、9）

彼は、神が永遠に沈黙を守ることはないと確信している。(詩69:33-36、42:5、102:13)

詩篇は、人生の状況にかかわらず、神とのコミュニケーションは続けなければならないことを示している。

(火)
なぜ詩編記者は
神様の沈黙にもかかわらず、
祈り続けるのですか？

聖書の中の主の約束は失敗したのだろうか？

「そのいつくしみはとこしえに絶え、その約束は世々ながくすたれるであろうか。」詩篇77:8

あなたは詩篇の作者（詩77:1-6）のように感じたことがあるだろうか。彼は神に叫んで答えを求めたが、それは見つからなかった。絶望の中で彼は慰めを拒み、神に向かって歌い、神を黙想した時を思い出す。そして彼は言う。「今、神は私をお忘れになったのでしょうか。あなたの約束はどこにあるのですか？(詩77:7-9）。

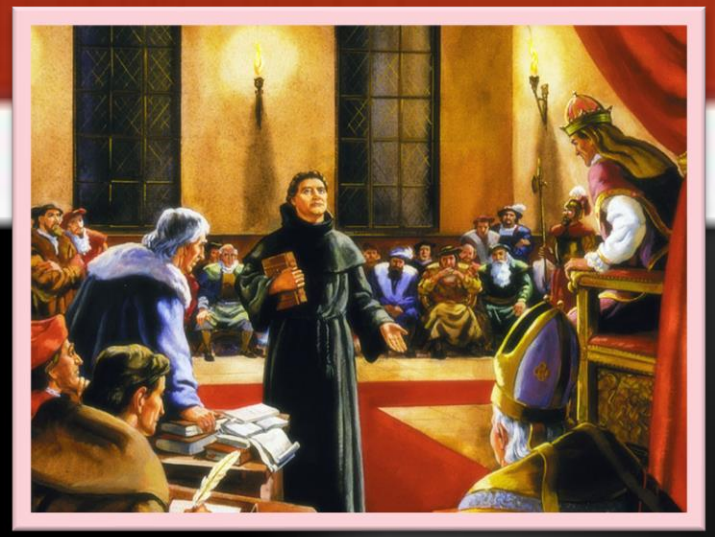
その答えは過去にある（詩77:10-12、ヨシュ21:45）。　神は国々の前で不思議を行われた（詩77:13-17）。海に道を開き、モーセとアロンの手によって民を導かれた（詩77:18-20）。

しかし、彼の行動のすべてが明白だったわけではない。時に神の足跡が、人の目に知られずに行動されたこともあった（詩77:19）。

公然であろうと、隠されていようと、神は行動される。私たちは神を信頼しよう。

(水)
なぜ詩編記者は、
神様から与えられる平安以外により
慰められることを拒むのですか？

なぜ悪人は栄えるのか？



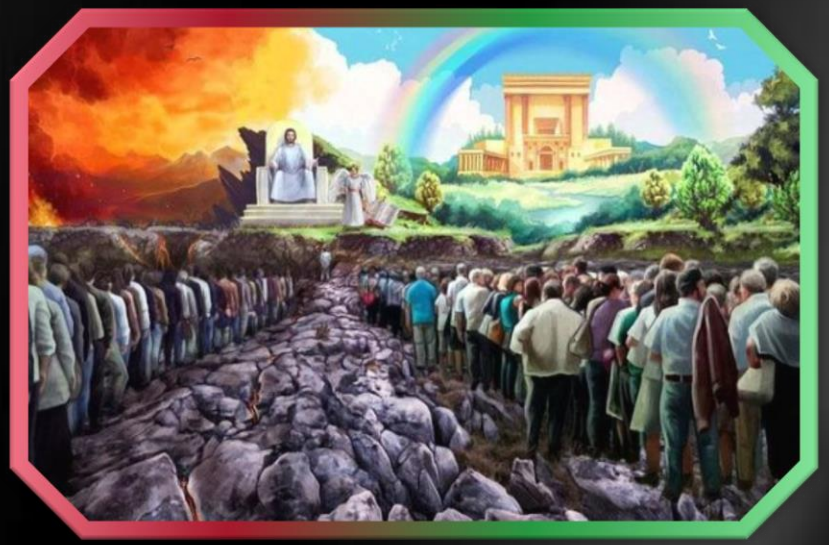
「これはわたしが、悪しき者の栄えるのを見て、その高ぶる者をねたんだからである。」詩篇73：3

その理論はこうだ：「考えてみよ、だれが罪のないのに、／滅ぼされた者があるか。どこに正しい者で、断ち滅ぼされた者があるか。わたしの見た所によれば、不義を耕し、／害悪をまく者は、それを刈り取っている。」（ヨブ4:7.8）

しかし、現実は違う。多くの邪悪な人々は、神を人生から取り除いてもらっているにもかかわらず、栄え、苦しまない（詩73:3-9）。しかし、神に仕えようとする人々は、苦しみ、悩む（詩73:13-14）。

現実的になろう。この世界では、「律法は弱められ、裁きは真理に従って行われない。

そのため、アサフの足は滑りそうになった（詩73:2）。しかし、神が彼の歩みを聖所まで導かれたとき、彼はようやく理解した（詩73:17）。



私たちは、邪悪な者の繁栄を真の観点から見なければならない。「今日」ではなく「終わり」を見なければならない。邪悪な者たちが神の裁きに直面するとき、彼らは存在しなくなり、正しい者たちのために用意された幸福な永遠を失うのだ。

(木)
不義の横行するこの世界で、
どうしたら神様への信仰を
もち続けられますか？

「主の憐れみ深い優しさは、私たちに対して大きい。主は、ご自分に信頼する者を決して見捨てられない。[……）私の兄弟姉妹たちよ、暗い道に入り、バビロンの捕われ人のように柳に琴をかけなければならないと感じている者よ。この暗い前途を前にして、悲しみと死別の重荷を魂に負いながら、どうして歌うことができようか、と言うかもしれない。[…）恵みの御座に願いをささげるとき、感謝の賛歌をささげることも忘れてはならない。[救い主の永遠の命は、私たちに絶え間ない感謝と賛美を与えてくださる。」

（非公式訳）EGホワイト (セレクティッドメッセージ第２巻,祈り と賛美の時 p.268)

「私たちは、巡礼の残りの旅を通して私たちの前にあるすべてのことのために自分自身を強くしするために、主が私たちの目から拭ってくださったすべての涙、主が和らげてくださったすべての痛み、取り除かれたすべての不安、払拭されたすべての恐れ、供給されたすべての欠乏、与えられたすべての憐れみを記憶に新鮮に留めたいと望んでいる。」

（非公式訳）EGホワイト (This Day With God,February 19)